

## 第48回与謝野町地域公共交通会議 会議報告書

■日時 令和6年12月6日（金）午後2時00分から午後3時10分まで

■場所 岩滝保健センター2階 会議室1・2

### ■出席者

山添 藤真	日高 政美	井上 学	糸井 康裕	西村 良久
池本 久男	小西 正芳	渋谷 卓司	山添 雅男	安達 幸三
林 忠広	井崎 智満	辻 圭	植田 哲史	田辺 茂雄
市田 桂一				

### ■代理出席者

白木 智章	福井 陽平
-------	-------

### ■欠席者

山崎 哲典	河邊 時寛	川本 康博	川端 克久	柴山 進
-------	-------	-------	-------	------

### ■事務局

山口 企財課長	田村 企財課長補佐	松本 企財主任	本田 企財主査
---------	-----------	---------	---------

### 会議の要点

#### 【報告案件】

- 丹海バス路線の再編について、峰山線の延伸、福知山線の代替交通確保に係る現況を資料のとおり報告した。
- よさの乗合交通の令和5年度の実証運行結果、令和6年度の本格運行移行後の実績、利用促進の取り組みについて資料のとおり報告した。
- 与謝野町地域公共交通計画の令和5年度の進捗評価を実施し、各評価項目の現況について資料のとおり確認した。また、丹海バスの再編に伴い計画内容の修正が必要となるため書面協議を開催する予定であることを報告した。

### ■会議内容

- 1 開会  
配付資料の確認、出席状況の報告

2. 会長あいさつ（割愛）

3. 議題

#### 【報告案件】

- (1) 丹海バス路線の再編について

- ・峰山線について
- ・福知山線について

- 事務局から資料1-1について説明。

- ・峰山線の再編について、事務局から資料 1-1 を説明。沿線の自治区に対して区役員を始めとした地元住民へ町職員と丹海バス職員とが出向き説明をしているところ。内容について前回までの本交通会議の説明内容から変更なし。
- 丹海バス石田計画課長から資料 1-2 について説明。峰山線を延伸する関係で、メインへ乗り入れしない峰山線 4 とメインへ乗り入れする峰山線 5 を系統として新設し、峰山線 4 の便の一部を峰山線 5 に乗り入れる系統に振り替えることで、利便性を向上させる。振替対象となる便については、現行の利用者への影響を抑えるようにしたい。また、現在、鉄道と他の路線との接続や学校関係者からの意見を踏まえ、具体的なダイヤを検討中であり、詳細については後日交通会議委員へ共有を予定。なお、与謝野町に関連する路線の運行便数の総数については、平日 56 便土日祝 49 便と、便数の総数に変更なし。
- 事務局から資料 2 について説明。
  - ・福知山線は令和 7 年 3 月末をもって廃止となる路線であり、代替となる交通手段の確保について検討をしてきたところ。
  - ・二つの方法による代替の交通手段を想定しており、京都丹後鉄道への振替輸送への利用促進を基本の考えとする。
  - ・京都丹後鉄道経由で福知山市に向かう場合、現行ダイヤでも通学に利用できるダイヤとなっているが、大きな課題としては、加悦方面行きのバス 17 時 44 分以降がなく、公共交通を利用して家に帰ることができない状況にある。また福知山市内の公立高校、京都府教委からも丹後海陸交通に 18 時以降の便を増便することができないかという要望を受けたという経過がある。この要望の検討材料として、町と丹後海陸交通で中学、高校生向けのアンケートを行った。
  - ・丹後、中丹の通学圏内に通う与謝野町内在住の中・高校生に対し、平日 18 時以降に与謝野駅から与謝方面に向かう公共交通または有料の送迎サービスがあれば利用するかという問いでアンケートを実施。有効回答数は 159 人、利用しないというのが 100 ほどある中で、週に 1、2 回が 18 人、ほぼ毎日利用したいというのが 7 人。
  - ・少なからず需要はあるが、これが多いか少ないかという点では、非常に判断が難しいところだが、丹後海陸交通と協議し、需要見込みを踏まえ、18 時以降の便は要望に応える形で、夕方の便を設ける方向で調整しているところ。1 便増やすという考えではなく、1 日の便数は変更せずに、早朝便をこの夕方便最終便の方に振り替えるというような方策でダイヤ調整に向けて協議中。
  - ・福知山市内と与謝野町内を移動する手段を持つ団体と、福知山線の代替交通として住民の皆さんの移動手段になるような取組ができないか意見交換をしているところ。協議が開始されたところであり、まだ皆様に詳細を報告できる段階ではないが、鉄道とは別の手段についても検討している。委員の皆様方にお知らせできる段階になった際、報告内容によっては協議が必要となる。改めてご意見をいただきたい。

## ■主な意見

### ○林委員：

まず中高生のアンケートについて、丁寧に対応いただき感謝申し上げます。このようなデータがないとどのようにしていくべきか判断が難しくなるというところで、基本的に需要をどのように見ていくか。先ほど事務局からもあったが 7 名という数字をどう捉えるかは非常に難しいところ。バスというのはある程度乗り合わないと成立しないので、数人のためにバスを走らせるというのは非常にもったいない。常々申し上げている通りバスの運転手というのは限られていて、その中で運行することになる。今回、朝の便を振り替えることで、基本的にバスの運転手の数を増やさなくても済むような対応を考えているが、一方で増便になったときにどう判断していくかというのは難しいところ。弊社としても必要な地域にはバスを走らせるべきだと思うし、あまり人が乗らない地域は、他の代替手段に切り替えるとか、大型バスの運転手を乗る人自体が少なくなっているの、その辺りは考える必要がある。学生というのは難しいところで毎年通学される人数が変わる。来年になればこの地域から福知山に行かれる方の増減があるというところで、毎年しっかりと需要動向というのを見る。その上でバスが必要であれば対応し、必要なければ他に集中させることも考えていく必要があると思うので、こういったデータをしっかりと見据えて判断していきたい。

### ○会長：

その他いかがでしょうか。皆様それぞれ丹海バスの路線需要見込み調査結果など意見をいただきながら、この議題についてはご意見を取りまとめいただくことができればと思う。特にないようであれ

ば、この件については議論を終結する。よろしいでしょうか。議事（1）の丹海バス路線の再編、福知山線について、ご理解をいただいたものとする。

## （2）よさの乗合交通の運行実績について

- ・実証運行結果について
- ・本運行移行後の運行実績について
- ・利用促進について

○事務局から資料3、資料4、資料5を説明。

- ・資料3は令和5年10月から開始した実証運行の1年間の報告書という形で改めてまとめたもの。これまでのご報告内容から変わるものではなく、これをもって実証運行の結果報告とする。
- ・資料4は令和6年10月から本格運行を開始したよさの乗合交通の10月分の実績を報告。11月分については運行事業者からの実績報告を精査中のため10月分のみ報告。
- ・資料5はよさの乗合交通の利用促進について、これまでの傾向から、一度でも利用した人はリピーターになる傾向が強い乗り物であり、無料乗車券を作成、配布することにより利用促進を図るもの。
- ・無料乗車券の配布方法として、与謝野町で作成したものをスマホ教室の参加者に配布した。11月25日～27日に町が主催となりスマホ教室を開催した。参加者によさの乗合交通を説明し、趣旨に賛同いただける方に無料乗車券を配布した。当初はスマホ教室の中で、実際にアプリの登録を想定していたが、時間が取れなかったため配布のみとなった。後日、企画財政課窓口まで来られて登録した実績もある。
- ・無料乗車券の配布について、野田川地域では協力いただける区と個別で話をして配布した。加悦地域では、加悦地域支え合い交通運営協議会と連携し、対象地域への各戸配布を行った。
- ・有線テレビにおいてよさの乗合交通の利用方法のCMを作成し、11月27日から放送開始。このほか、乗車体験会など検討中の取組もある。

### ■主な意見

○日高委員：

無料乗車券について、既に配布済みということだが、利用率、パーセンテージ等利用者は今時点で把握されているか。

○事務局：

乗車券の利用率については現在集計中。10月時点で3枚、11月分は加悦地域で利用されている。この取組が、浸透していくのは12月と見込んでいる。12月でどれぐらい利用があるかと、この利用促進策がどれぐらい効果があったというところが図れるかと思う。先ほど日高専門官からあったように、関連データについては次回の交通会議で報告したい。

○日高委員：

有効期間内に使われなかったとなると、無料にしても乗らないことが把握できると思う。その人たちを更にとどうしていくかということが次の課題になると思う。

○林委員：

今の利用者の属性は分かっているのか。他に移動手段がない人なのか、自家用車を持っているけれども一回乗ってみようとするような人なのか、イメージで構わないのでどのような感じか、もし分かれば教えてほしい。

○西村委員：

正確なことを把握できていないが、肌感覚ではこれまで家族にいつも送迎をお願いしていたが、とりあえず往路だけ乗合交通を利用して、復路は家族や他の移動手段を使うなどのケースが見受けられる。これまでは家族に送迎をお願いをしていたが、遠慮や気遣いがあった。よさの乗合交通では気兼ねなしに利用できるという点で、喜んで使ってもらえる方がリピーターになっていると考えている。町営バスを利用されていた人が全て移行することにならないとおかしいと思う。そこをもう少し利用してもらえようことができれば。また、往復利用を促進できるような取組ができれば、利用促進に繋がると考えており、町と協議をしながらそのような施策に取り組みたい。

○田辺委員：

私からは情報共有をさせていただく。先日、障害者の方でよさの乗合交通の予約方法について、福祉課の窓口に来られた。どこからどこへ行きたいと話を聞きながらその場で職員と一緒に予約をした。障害のある方が、これまでと違うやり方という中でなかなか難しいということを改めて感じている。また、11月の終わりに当事者の方と町長と懇談する機会があったが、その中でも予約ということに対して、障害のある方は出かけたという思いはありながらも、ハードルがあるという意見が出た。今後、企画財政課とも相談し、利用の仕方というのを、通常の説明会ではなく、より丁寧に説明が必要な方に対して、ニーズは必ずあるので利用促進を進めていきたいと思う。

○井上先生：

すごくデータをしっかりまとめていて、戦略的にすごくチャレンジされている。大変良い政策をやっているということは皆様にも共有いただきたい。なかなか他の自治体ではここまでしっかりやられるところもない。その中で今後の展開だが、よさの乗合交通に新規利用者を獲得しようとするのであれば、運賃を無料にするのではなくて、目的地のサービスと連携させる。例えばウイルに行くときに乗合交通を利用されたら、洗剤をプレゼントするような、乗合交通を使った方が目的地でお得になるという政策をしない限り、車からの移行は難しい。なぜかという無料にしても車の方が楽。車は無料だと思ってる人たちが多く、それには勝てない。無料では車よりもちょっとしんどい、予約も面倒だけれどもこちらを利用の方がお得になると移行する人が出てくるので、ぜひご検討ください。次に無料にした場合にどのようなインセンティブが出るかという、電話予約から今度はアプリ予約に変えてもらうときに、無料にするというインセンティブが効果を発揮する。面倒に感じる人が多い中、アプリに移行してもらうには、電話予約だったら今の倍の値段をいただきます、アプリだったらしばらく無料で乗れますよと言うとみんなアプリに移行していく。インセンティブの戦略というのは参考にしていただけないかと思う。

2点目は、まだ利用者数が少ない中で、何時にどこからどこに移動するかみたいなことを1回全利用者の移動を見て、もし調整できるのであれば、1台の車両で動かせるようにしていくことで、乗合率を高めていくのがいいと思う。今後もし利用が増えたときに出てくるのが、今は利用者数が少ないので、かなり手厚くサービスをやっていたらと思う。運転手もあまり手厚くやりすぎると、乗合をお願いする時に、もう15分待ってくれたら助かると言っても、「いつも私が言ったらすぐ来てくれるのに、そんなことはできません」みたいに、だんだん今までの皆さんの手厚いサービスが当たり前になってくると今後調整しにくくなる。今のうちからでも10分、15分ぐらいずらせる方はずらして、1台の車両で移動できるようなことをやっていかないと今後、大変になる。そのようなチャンスが本当にあるのかどうか、データは私にも提供いただければ分析するので精査してみるといいかと思う。

3点目は、今回の資料3の課題のように、予約を受ける側の課題も今のうちにいろいろ情報共有いただけるとよい。予約を受ける方が電話が多かったり、無理難題を言ってこられてしんどくなり心が折れるといった自治体の話も聞いている。安いタクシーではなくて、みんなで折り合いをつけて乗るものだとすることを利用者と共有いただきたいので、ぜひこの課題のところは常に情報をいただき、みんなで共有できるといいと思う。アプリは、今回のようにスマホの教室のときにお勧めするのが一番。視点はすごくいい方向を向いて利用促進をされているのでぜひ今後も継続いただきたい。

○会長：

ありがとうございました。ただいま井上先生からインセンティブの設定などについてご意見いただいた。事務局からお返しする点があればよろしくお願ひしたい。

○事務局：

井上先生からインセンティブの施策についてのご助言、ご提案だった。今回、無料乗車券の配布により、分析をした上で段階的に危機感を持ってやっていく。このようなことも協議会とも話をしている、またその中でも検討が必要なこととして共創が非常に重要と考えている。地域公共交通計画にもこの乗合交通だけではなく公共交通を地域で支えていく、利用していくということが非常に重要としている。店舗とのタイアップは欠かせない施策だと思うので、しっかりと地に足をつけてやっていきたい。もう一方のアプリへの転換ということについても、先生が仰った施策というのは非常に面白い。一方で、そういったことを転換させていくときに、どういったことができるかということも合わせてしっかりと検討したい。乗車時間のデータ分析については、一定、傾向としては11時台から12時台いわゆる午前中の利用が非常に多いことが分かっているので、井上先生にも資料を提供させていただき、施策をとるに

考えていただき、こちらかも提案できるようなことも検討させていただけたらと思う。課題の部分に関して、地域の皆様、運行事業者、行政を含め、先生はかねてから持続可能な乗り物をしていくための必要性というのを、アドバイスいただいている。皆が無理なく続けられる方法というのを考えていく。そういった視点は大事だと思っているので、引き続きご指導、ご助言いただきながら、地域の皆様とともに地域公共交通会議の中でそういった持続可能な乗合交通、公共交通体系について検討していきたい。

○井上先生：

無理のない範囲で利用者数を増やしたい気持ちは分かるが、ぜひ運転手の方も持続可能というイメージを持ちながら今、仰ったような共創を行っていただければと思うので、よろしくをお願いします。

○会長：

ありがとうございます。その他の委員の皆様いかがでしょうか。特に其他のご質問などが無いようございますので、以上をもちまして議事(2)よきの乗合交通の運行実績についてはご理解をいただいたものとします。

### (3) 与謝野町地域公共交通計画について

- ・実施事業の進捗状況について
- ・各評価項目の現況について
- ・与謝野町地域公共交通計画の改定について

○事務局より資料6、資料7について説明。

- ・令和5年度末に策定した与謝野町地域公共交通計画について、進捗状況を確認。
- ・資料6の「1.公共交通利用者の満足度がより高まるサービスの実現」を達成していくために、(1)路線バス地域内交通の再編による持続可能な交通体系の構築ということをやっていく。令和5年度は予約型乗合交通実証運行を開始とスケジュールに記載しているが、進捗状況として評価基準は順調に推移しているという評価。
- ・(2)交通結節点での乗り継ぎを高齢者の方で調整は、毎年度、ダイヤ改正時にJRのダイヤ改正を一つの軸にして交通事業者において接続環境をしっかりと整えていくことで実施をしている。進捗状況も順調に推移しているという評価。
- ・(3)与謝野駅100周年に向けた駅周辺部の賑わいづくりと待合環境の整備については、令和5年度の取組状況は令和5年5月に地域住民の皆様により与謝野駅100周年委員会が発足し、駅周辺部の活性化に向けたコンテンツ作りの検討駅前公園の整備を行った。令和6年度の取組についても様々進めており、行政側についても、待合環境整備に向けた取組について支援を始め、ほぼ順調に推移しているという評価。
- ・(4)積極的な情報発信タイアップ事業の実施ということで、実施可能な取組から着手する。広報媒体を用いて情報発信を行っており、ダイヤ改正時には交通公共交通の時刻表を発行した。また乗合交通の別冊の利用ガイドの発行なども行ったことから、ほぼ順調に推移しているという評価。
- ・「2.だれもが公共交通の使い方を理解し移動することが楽しくなるまちの実現」は、(1)お試し乗車会や乗り方教室の実施。令和5年度においては丹海バスの主催という形で、加悦小学校での乗り方教室を実施。また、乗合交通の事業者や利用方法を伝える説明会についても、26回実施。ほぼ順調に推移しているという評価。令和6年度以降も、継続して現在実施中。運転免許証自主返納者の利用促進ということで、令和5年度においては74件申請があり、タクシー券や丹海バス乗車券を交付している。
- ・3の政策目標について、(1)事業者等他分野の関係者との連携、外出機会の創出について令和5年度は乗合交通利用促進キャンペーンをにしがきと実施。インセンティブの提案についても、取り組みを継続させていくことが重要という認識。
- ・(2)交通事業者の人材不足の解消について、令和5年度の取組状況は、与謝野町も参画する京都府北部地域連携都市圏公共交通活性化協議会という沿線市町で組織される協議会において、公共交通人材募集のチラシを作成した。このチラシは、本年実施予定のバス運転手の体験会での配布や、バス事業者採用活動時に活用するというので、人材確保、人材不足の解消に向けた取組を行政交通事業者、当社関係機関一体となって進めている。
- ・資料7は評価項目の現況についての資料であり、令和3年度から5年度、8年度の目標設定に対しての進捗確認ができる資料。数値の説明については割愛。

## ■主な意見

### ○会長：

ただいま事務局から町地域公共交通計画の実施事業の進捗状況各評価項目の現況、また改善の内容などについてご報告があった。ここまでの内容についてご発言のある方は挙手にてご発言のほどよろしく申し上げます。

### ○事務局：

先ほどの説明で1点補足をする。この与謝野町地域公共交通計画についてはよさの乗合交通の本格移行に伴い、一部内容が変わる部分があり改定をしてきた経過がある。今般丹海バスの再編を控えており、計画の内容に一部変更が出てくる。これについては、大きな本旨を変えていくところではないので新旧対照表を準備し、今後の書面協議の中で確認をいただき決議をいただきたい。与謝野町地域公共交通計画を交通会議でご承認いただきたい理由としては、交通施策の根拠となる計画であり、また、国庫補助金での支援をいただく中でこの計画がしっかりとしたものではないので、そのような点からも、次回の書面協議で、改定に向けて取り組んでいきたい。

## 4 その他

学識経験者の井上先生と京都運輸支局日高専門官から感想や意見をいただく。

### ○井上先生：

まず、この会議資料が大変よくまとめられてるということは皆さんも承知いただきたい。ここまでしっかり作られている自治体もなかなかないので大変だとは思いますが、データでできる限り可視化できるようにまとめることができると議論がしっかり進む。今後想定されるのが、運転手の確保ができないこと。今50代の運転手が多く、毎年のように運転手が減る時代になる中で、地域でどこまで担えるかということが課題。本来であればバスを運行したいが、地域の方々に協力いただき、少し短い区間については、みんなで助け合おうという時代になりつつある。一方であまりにも利用者の声ばかりを聞いていると、運転手が疲弊し倒れてしまう。細く長く続けていけるようお互いの立場を、自分ごととして理解した上で、助けられるような仕組みを作っていくことがこれから望まれる。それと今回、福知山線の代替で学生の通学をどうやって確保するかという中で、可能であればバスがよい。バスでなければならないほどの大人数であればバスだが、実際利用が少ないのであれば別の手段、例えば乗合交通を学生の使う時間帯だけ運行するような柔軟な形でサポート出来ればと思う。さらに中学生、高校生の数は把握はできる。高校はどこの高校への通学になるかが毎年流動的になるので、常に3月までにどこの高校に行くかということ把握した上で、学生が困らないような移動手段を確保しなければならない。できる限り保護者の負担を減らして、学生が自分で移動の選択ができるようにしていくことは地域にとって望ましい姿。やはり通学できないから諦めるというのは大変残念なことであり、そのようなことがないようにできる限りのサポートをお願いしたい。あとは可能な限り中学生の進学先が決まる前に、通学手段に鉄道やバス、乗合交通など、車以外の選択肢を中学生のうちに知ることができる機会を作っていたらいいと思うので、その辺りを次年度にぜひご検討いただきたい。

### ○会長：

ありがとうございました。ただいまの井上先生のお話の中で、皆様にはご質問などあれば折角の機会ですのでどうですか。よろしいでしょうか。細く長く、住民に寄り添う交通というお話だったと伺いました。井上先生ありがとうございました。引き続きよろしく申し上げます。

続きまして京都運輸支局の日高専門官からご指導ご助言をお願いします。

### ○日高委員：

先ほど井上先生からも話があった通り、与謝野町でも10月から公共ライドシェアが本格運行したということでもめでたい話だが、既存の交通事業者を守っていくということも大切なこと。どこの市町でも同じだが、バスがあるから安心という気持ちを持つ方がいる一方で、本当にバスを利用しないと、バスもなくなってしまいます。事業者についても、慈善事業ではないので、利益がないことには運行できない。本当にもう使えない、危機的な状態にあるということをどのような方法でも結構なので、利用者側に危機意識を持てるような形でアピールをしていく必要がある。本日の会議では、よさの乗合交通の今までの取組や10月からの運行実績等を報告された。これは行政含めて、交通事業者、地域住民、様々な方が協力し、本格運行まで繋げることができたということについて、改めてこの場をお借りして敬意を表した

い。公共交通機関、公共ライドシェアも含めていかにして乗っていただくかというのが重要。これは町のまちづくりという観点からも重要なこと。様々な政策等を報告されているが、施策を長く継続することで、この事業も未来永劫続けていただければと思う。

運転手問題について、困難な状況にあることは本交通会議でも報告されているところ。京都運輸支局としても、10月末に自衛隊との共催により退役される自衛官を対象に、京都市内の大久保駐屯地というところで、市バス、タクシー、トラック、ひいては自動車整備士を目指す方を対象に、就職相談会や運転体験会を実施した。これについては、一部報道機関、テレビ放映されたということで、多少は効果があったと個人的に思う。また退役予定の自衛官については、大型免許を持っていて、ひいては二種免許を持つ方も非常に多かったのも、将来退役された後に再就職先として選んでもらえれば、即戦力になると印象を受けている。さらに12月15日の日曜日には昨年度に引き続き、京都運輸支局の構内で一般の方を対象にバスドラフェスを開催する。バスの運転手確保という観点から、疑似体験とか就業制度相談会、「次止まります」の映画を見ることが出来るブースも設ける。昨年は250人ほど来場されたが、今年は更に来場者を増やすことができたと思う。このような取組を通じて、国の方でも運転手確保への一助になればと考えている。

最後になるが、12月8日には国土交通大臣が、10月から本格運行を開始したよさの乗合交通を視察する予定。与謝野町をアピールする絶好の機会だと思う。

○会長：

ありがとうございました。ただいま日高専門官からも様々なご指摘であったりとか、運転手確保に対して、支局としても取り組まれているという話であった。皆様方、何かご質問はありますか。ないので、本日予定をしていた議題については終了したので、進行を事務局にお返す。

○事務局：

長時間にわたりご協議いただきありがとうございました。次回の地域公共交通会議は、本日の丹海バス路線の再編の内容やフィーダー路線の事業評価の関係もあるため、年明けに書面協議での開催を予定している。その際には事務局から案内を発出するのでよろしくお願ひしたい。それでは以上をもって、第48回与謝野町地域公共交通会議を閉会する。

以上